

平成29年4月から「義務教育学校」に移行します

多久市では平成25年度から全国に先駆け小中一貫教育を開始し、3年が経過しました。小学生と中学生がひとつの学校で学ぶ教育実践を積み重ねてきました。この実践は全国に広がり、平成27年6月には学校教育法の一部が改正され、これまでの小学校、中学校に加え「義務教育学校」が新たな校種として位置づけられました。このことを受け、本市では、小中一貫校3校を平成29年4月1日から「義務教育学校」に移行します。

多久市が学力向上や豊かな人間性の育成、中1ギャップの解消を目指して取り組んできた「小中一貫教育」が制度化され、正式に「義務教育学校」の名称で、一層推進することが出来るようになります。

◆義務教育学校のQ&A

Q1 小中一貫校から義務教育学校になって学校生活は変わるのですか？

A 今回の制度化は、小中一貫教育を法的に位置づけるものです。これまでの取り組みが制度化されたもので、子どもたちの基本的な学校生活はかわりません。中学生の制服、小学生は私服登校(西浜校のみ標準服)も変わりません。

Q2 市外等からの転入や市外等への転学は今までも可能ですか？

A 義務教育学校においてもこれまでどおり、どの学年でも転入・転学は可能です。

Q3 6年生の卒業証書、入学式、卒業式はどうなるのですか？

A 義務教育学校の修業年限は9年です。9年で卒業になるため、6年生は前期課程修了証書を発行します。義務教育学校では「6年生の卒業」「7年生の入学」は、平成29年度から制度上なくなります。

Q4 義務教育学校の前期課程(6年)終了時に他の学校を選ぶのですか？

A これまでと同様に6年生終了時に在籍以外の学校を選ぶことができます。

これから義務教育学校について掲載していきます。

■問い合わせ

教育委員会 学校教育課

☎75-22227

| 温 | 故 | 創 | 新 |

市長コラム Message for citizen

実りの季節の祝福を

市長 横尾 俊彦

超猛暑の後、今年は少ないかと思われた台風も連続襲来。特に16号は強大で、勢力を増しつつ九州に接近。市では自主避難所も設け、万全を期して備えましたが、実際には、市内は大きな被害もなく経過し、安堵できたのでした。でも、列島各地では想定以上の雨で、24時間雨量では延岡445ミリ、日向578ミリなど、1か月雨量を超える大雨で被害続出でした。

重陽の季節・9月は長寿を祝い、人生経験豊かな先輩を敬う敬老の月であり、恒例の百歳祝賀訪問を行いました。今年は例年より多い人数です。最もお元気な方は、ひとしきり歓談し「では次に向かいます」と退席の挨拶をすると「見送るから」と玄関で握手、さらに道路出口まで出て見送って下さいました。健康・元気はまさに人生の宝だと教えられる一幕でした。

健康長寿を育めるよう、市は様々な取り組みを展開していますが、最も大切なのは、ご本人が気づき行動していただくことです。百歳長寿者の共通点は、ほどよい食事を習慣にされ、肉などバランスよく食されています。人体の細胞は入れ替わっていますので、適切な食事は新たな生命力を受け、身体も元気になるります。活動に必要なエネルギーとなる力ロリー摂取も大事です。これらは政府も着目されている「高齢者フレイル(虚弱化)」予防に欠かせません。そして、出会い語らい、散歩・プチ旅行など心動かされる時間も認知症対策に効果的だそうです。さあ、さわやか涼やかな10月。実りの季節に、豊かな自然の恵みと心はずむ時間の祝福が皆様にありますように。22・23日の多久まつりに加え、多久聖廟祭は10月23日10時半から。紅葉狩りも兼ねてお出かけください。晴天を祈りつつ。